

## 第20回豊田市市政顧問会議〈公表用〉

---

【日 時】平成29年10月6日（金）午後1時～午後2時30分

【場 所】豊田市役所 南52会議室

【出席者】会 長 奥野 信宏（公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター長）

副会長 三宅 英臣（豊田商工会議所 会頭）

委 員 伊藤 葉子（中京大学 現代社会学部 准教授）

同 上田 達郎（トヨタ自動車株式会社 専務役員）

同 小澤 仁和（愛知県労働者福祉協議会 豊田支部長）

同 柴田 文志（あいち豊田農業協同組合 代表理事組合長）

同 鈴木 義金（豊田市区長会 会長）

市 長 太田 稔彦

副市長 杉山 基明

副市長 磯谷 裕司

【次 第】1 開会

2 市長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議事

・KITARAオープンを契機とした都心まちづくりについて

5 閉会

---

### 【概要】

・ KITARA オープンを契機とした都心まちづくりについて

## <主な意見>

- ・ K i T A R Aは至るところに市民の人たちが集まるスペースがある。地方圏の都市の駅前には車のためのスペースになっていることが多い。普通の市民、民間が、N P Oの考え方を取り込んで公共に生かしていく時代。市民のN P O等の活動にスペースを使える。
- ・ 地方の中間的な都市の持続可能性に問題がある。車で30分から1時間以内に大都市があるところは、持続可能性が危ぶまれている。機能が縮小していく。豊田の場合、産業は強く、人口も、駅前の整備も、リニア等も進んでいる。しかし、物販は名古屋との長い競争があり、中間都市的である。
- ・ 豊田の中心にどんな人に来てほしいのか曖昧である。知立、岡崎、名古屋のほうが近いという人もいる。名古屋、岡崎とは違う魅力が必要。
- ・ 名古屋まで40分ということは、名古屋から40分という発想が欠けている。
- ・ 駅前の開発は多世代交流できる企画である。また、人々が広域から繰り返し集まるときに、広場の活用の仕方が集まるきっかけになり、多文化共生につながる拠点になる。
- ・ 災害時の避難ルートに関して、R W C、アジア大会に向けて、ルートに関するサインのチェックをした方がいい。
- ・ 稲武のどんぐりの里。休みの日に県外からきている。中山間地で、県外の方が来られるものがあるといい。
- ・ R W C 2019までに、何ができるか。中心市街地に魅力があれば集まる。美術館からスタジアムまでをどうつなげて、回遊できるようにするか、まちなか一体で検討が必要。

(以上)